

平成27年 10月 1日

(公財) 日本中学校体育連盟
剣道競技部 各ブロック長 様
各都道府県剣道競技委員長 (部長) 様
各中学校剣道部顧問 様

(公財) 日本中学校体育連盟
剣道競技部長 矢部 勇介
(公印省略)

剣道部活動における適切な指導について (通知)

3年前、高等学校において、運動部活動顧問から体罰を受けた生徒が自殺するという痛ましい事故が発生したことを受け、(公財) 日本中学校体育連盟 剣道競技部から昨年10月1日付けで「剣道部活動における適切な指導について」の通知を出したところです。

つきましては、改めて下記の「剣道部活動における適切な指導」について、関係の皆様にご確認いただき、全国の各中学校剣道部において、適切な指導が実施できますようよろしくお願いいたします。

記

(1) 生徒の人格や人権、自主性の尊重

部員の人格を否定したり、人権を侵害する体罰や暴言は、生徒や保護者との信頼関係を著しく損ない、重大な問題へと発展してしまいます。部員一人一人の個性を尊重し、「剣道の稽古を通して人を育てる」ことを心がけてください。

(2) 発達段階を考慮した稽古

部員の発育・発達段階によって、目的、頻度、運動強度、持続時間、稽古の種類などを組み立てることが大切です。これらを見ない稽古やトレーニングは、障害や意欲低下を招くおそれがあります。生涯にわたって剣道を愛好していけるよう、適切な指導を心がけてください。

(3) 勝利至上主義に陥らない

多くの指導者や部員が「勝利」を目指し、毎日稽古に励んでいます。

勝利を目指して努力することは、学ぶべき多くの要素がありますが、「手段を選ばず、ただ勝てばよい」という考えが先行し、指導者の要求レベルが高過ぎると、部員を追い込み、体罰や暴言といったトラブルが発生しがちです。指導者と部員の信頼関係を築きながら、チーム目標や個人目標を確認尊重して、将来的な人格の形成を見据えて指導にあたるよう心がけてください。

※ 以上、部員が日常の稽古や試合を通して、心と体のバランスを保ちつつ、「剣道を続けて良かった」と感謝できる環境づくりを是非お願いいたします。

平成28年度「重点指導事項」について（お願い）

平成27年度第45回全国中学校剣道大会の運営及び試合・審判についての反省と今まで引き継がれてきた課題から、次年度の長野大会に向けて「重点指導事項」を策定いたしました。

つきましては、下記の項目について、各都道府県の大会や強化会・講習会等での積極的な指導をお願いいたします。

記

1 申し合わせ事項についての徹底

- 「申し合わせ事項」（別紙）についての御理解と御協力、指導の徹底をお願いします。

用具・着装全般（文字等を含む）について従来の伝統的な色や形を安易に変える傾向が若干見られますが、極力「申し合わせ事項」には加えず「指導」の形で対応します。規則に固執することなく「質実」という伝統文化の良さを積極的にご活用いただき、ご協力をお願いいたします。

2 礼法について

- 蹲踞の「始め」と「終わり」を正確・丁寧に行う。
 - ※「始め」抜きながら蹲踞する。
 - ※「終わり」納刀した後、右手を右太股においてから立ち上がる。
- ◇ 詳しくは、剣道指導要領 P 44、45 参照
- 団体の礼の前後や選手交替時における余計な所作は改める。
 - ※ 円陣を組んでの発声やパフォーマンス・胴づき等
- ◇ 全日本剣道連盟剣道試合要領「その他の要領」5項参照

3 その他

- 「安易に左拳を中心線から外す防御姿勢をとらせない」いわゆる「公正を害する変形な構え」について、今後も継続して御指導ください。
- 「鏝競り合いの解消途中」で時間空費が目的と思われる打ちを継続する場面が見受けられます。反則行為として御指導ください。
- 面紐の長さは結び目から40センチメートル以内です。また、結び目の位置が上過ぎて試合途中で面が外れる場面がありました。危険防止として適切な位置で結ぶよう御指導ください。
- 危険かつ見苦しい暴力的行為は、厳に慎むよう御指導ください。
- 試合者の名札は、生徒役員が判読しやすい字体にしてください。

付記 本件についての問い合わせ先

(公財) 日本中学校体育連盟
剣道競技部長 矢部 勇介
埼玉県春日部市立大沼中学校内
TEL 048(736)9986
携帯電話090-7887-1371

平成28年度（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項

申し合わせ事項は「剣道試合・審判規則第1条」に基づくものであり、規定外の事態は一般社会の常識で判断するものである。

【剣道試合・審判規則に関わる事項】

- 1 サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用
 - (1) 医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。使用する場合は届け出た上で、使用する。（成長過程における現状を把握するため）
 - (2) サポーターなどは、肘、膝などにつける物を足につけたり、ゴムや革及び滑り止めを底に張った物等の使用は禁止する。（相手に危害・公正さの観点から）
 - (3) 指先単独でのテーピングは届け出は不要とする。
 - (4) 届け出と違う物を使用した場合は、替えさせる。
- 2 面
 - ・面金を黒塗りにした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。
 - ただし、日常の稽古や練習試合での使用については特に制限を設けない。
- 3 竹 刀
 - (1) 平成10年11月10日付 全剣連指導指針「竹刀の先革先端最小直径値計測方法」による。
 - (2) 不正竹刀を使用した場合は、試合規則第19条1、2、3を適用する。但し、トーナメント戦は補員を認める。
 - (3) 不正竹刀とは、「ビニールやセロテープを巻いた物」「異物（先革の芯、柄頭のチギリ以外の物）を混入した物」「検印のない物」を指す。
- 4 公正を害する行為
 - ・「変形な構え等の防御態勢」をとった場合は、1回目は「合議」の上、「指導」、2回目以降は「合議」の上、「反則」とする。
- 5 突き技
 - ・禁止として反則とすることもある。（技としては反則とする）
- 6 上 段
 - ・上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。
- 7 二 刀
 - ・使用させない。
- 8 片手打ち
 - ・有効打突としない。
- 9 試合開始
 - ・主審の「始め」の宣告で完全に立ち上がって開始させる。（不適切な場合は、指導する）
- 10 主審の宣告
 - ・反則の宣告が簡略化されたが、（公財）日本中体連剣道競技部では「第3章第37条」～特に宣告に際し必要を認めた場合は、その理由を述べるができる～を教育的配慮として適用する。

【試合運営に関わる事項】

- 1 試合者要領
 - ・団体戦では、先鋒戦及び最後の試合者の対戦の場合、監督、選手ともに正座する。
 - 個人戦においての監督も同じとする。
- 2 華美への配慮
 - (1) 校名・校章等の刺繍（剣道着・袴）は、大きさ、色を含めて華美にならないように配慮する。
 - (2) 面乳革は、大きさ、色、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。
 - (3) 柄革は、滑り止め（ゴム等）や模様等のない無地のもので、白色とする。
 - ※ ただし、日常の稽古や練習試合での使用については、その限りではない。
 - ※ 柄革の上端（折り返し部分）の色・模様については、特に制限を設けない。
 - ※ 滑り止め（ゴム等）のついた柄革の使用は禁止する。

申し合わせ事項解説

「4 公正を害する行為」について

- ・「変形な構え等の防御姿勢」をとった場合は、1回目は「合議」の上、「指導」、2回目以降は「合議」の上、「反則」とする。

変形な構えについての共通理解事項

(平成24年度作成)

- (1) 「変形な構え」とは
 - ・左拳を概ね目線より上にして、面・右小手・右胴を同時に防御する形をいう。
- (2) 「指導・反則」とならない場合
 - ・中段の構え等からの「応じ技」途中の姿勢
 - ・鏝競り合いや体当たりでの「身体的圧力」及び「攻め」による一瞬の崩れ
- (3) 見極めの留意事項
 - ・「変形な構え」に近い形が認められても左拳の高さが目線に達していない場合が多いので、左拳の位置を確認の基準にする。
 - ・「変形な構え」で相手の打ちを待つ状態が確認された場合は、後から技が出ても「応じ技」途中の姿勢とは判断しない。

【指導・反則の宣告方法】

◇主審が合議をかける（主審の専決事項）

(1) 「指導」をとる場合

主審は選手を開始線に戻し「指導」をとる選手に近づき、審判旗を右手に持ち左手拳を明確に頭上（目の位置より高く）に上げ、「変形な構え」が認められたため「指導」をとることを説明する。次に定位置に戻り審判旗を一方に持ち、宣告を行う側の選手に対し、指を揃え手の平を内側にして、指先で概ね選手の前垂を指すように腕を上げ、「指導」と発声し宣告を行う。

(2) 「反則」をとる場合

「指導」と同じ要領で「反則」をとることを説明する。次に主審は定位置に戻り、他の反則と同じ要領で、旗を斜め下方に上げ、「反則〇回」と宣告する。

(3) 確認事項

- ・1回目は「合議」の上「指導」、2回目以降は「合議」の上「反則」とする。
- ・「変形な構え」に対して打った左小手は有効打の条件を充たしていればとる。

【掲示板への記入方法】

指：赤色地に白抜き文字「指」を掲示する。

「公正を害する変形な構え」の指導は1回のみ。次からは反則となり、掲示板の

指は残し、▲（反則）を新たに掲示していく。

【「変形な構え」を指導・反則事項とした理由】

生涯剣道のために大切な基礎基本を身につけなければならない中学生の時期に防御の効率のみを優先して、左拳を極端に身体を中心から外して防御に頼ることは、剣道の正しい修得を妨げるものである。剣道は一方を防御すれば一方に隙が生じ、打つときは打たれるときである。その緊張感と迷いを鍛錬と経験則による瞬時の判断で拭ききって勝負に出るところに醍醐味がある。

したがって、特に「突き技」を禁止している中学生の試合では、三カ所を同時に防御するという「変形な構え」は、左手が定まらないという見苦しさだけでなく、心の面でも剣道の良さを否定することにつながるものである。更には、いたずらに試合時間を引き延ばす結果にもなっている。

以上の理由により（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部では「変形な構え」を指導・反則とした。

「6 上 段」について

- ・上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。

隻腕についての共通理解事項

（平成23年度作成）

各都道府県で、隻腕の競技者が確認された際は、速やかに専門委員長がブロック長へ報告するとともに、「構えが公正を害する行為」とならないよう指導する。

○「構えが公正を害する行為」となるとは

片手上段で面を防御するとともに、竹刀の鍔元を所持して柄で小手を防御し、一方の腕（小手・袖等）で胴を防御するなど、三カ所を同時に防御することをいう。

○指導する理由

- ・中学生には「突き技」を禁止している。
- ・中段の構えにおいても「面」「小手」「胴」を同時に防御する「変形な構え」をとった場合は「指導」「反則」の対象となる。
- ・公平性、平等性等を考慮し、下記の指導をする。

○指導内容

- ・竹刀の柄頭を所持し構えるよう指導する。
- ・「鍔ぜり合い」及び「打つ直前」の鍔元所持は良い。

※上記の指導は大会直前では、競技者の身体的精神的負担が大きいため、極力早期に報告と指導を行い、監督や競技者が練習に生かせるよう配慮する。

学校部活動剣道指導の方向性と課題

(公財) 日本中学校体育連盟剣道競技部長 矢部 勇介

1 方向性

日本中体連剣道競技部では、中学校生が最大の目標とする全国大会において、「申し合わせ事項」を策定し、各ブロック大会や各都道府県大会、更には各都道府県内の地区大会でも、同一歩調で運用していけるよう努めています。

この「申し合わせ事項」は発達段階を考慮したグランドルールであり、生涯剣道の基礎を正しく学ぶために定めたものです。しかしながら、ブロック大会や都道府県大会に浸透させることは、日頃の指導の積み重ねによる点が大きく、容易なことではありません。

そこで、毎年全国大会では、ブロック長会議や審判会議・審判講習会で出た課題や成果を焦点化し、ブロック長の承認を得て「申し合わせ事項」解説として「共通理解事項」を追加したり、「重点指導事項」を各都道府県の競技委員長（部長）へ発信し、各校の顧問が日常の指導の中で生かせるよう配慮しています。

また、1月4日から6日に開催される全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会の折にも取り上げています。

2 解決に向かっている課題

- (1) 剣道着・袴・剣道具・竹刀・鍔などの用具全般の華美に関する事項
- (2) 礼法の中の正しい蹲踞に関する事項（剣道指導要領 P44.45）
- (3) 団体の礼の前後や選手交替時における余計な所作に関する事項
（円陣を組んでの発声やパフォーマンス・胴づき等）

3 現在継続指導中の課題

- (1) 公正を害する行為「変形な構え」に関する事項
- (2) 試合中の「かち上げ」「振り倒し」等危険行為に関する事項
- (3) 「鍔競り合いの解消途中」での時間空費に関する事項

4 新たな課題

- (1) 審判の判定への非礼な言動に関する事項
- (2) 適切な指導（体罰暴言等）に関する事項（通知）

※ 以上の課題については、「1 方向性」で述べたような順序で各ブロックや各都道府県への浸透を図ってきましたし、今後も同じ流れで課題解決に努めていきます。また、審判会議・講習会、監督者会議、調査等でも常に課題として取り上げていくつもりです。